

「火の用心だよい」 第33号 (平成29年11月号)

発行：札幌市消防局予防部予防課

★火災による死者の発生が

平成29年10月以降、住宅で発生した火災で「高齢者」と「子ども」合わせて4人の方々が亡くなっています。

平成29年中に住宅で発生した火災で亡くなられた方は、11月9日現在、15人で前年同日と比較して6人増加しています。

特に、65歳以上の高齢者は、15人中10人で7割近くを占めています。

★データからわかる「危険な火災」

火災原因	H24～H28 住宅火災での死者数	H24～H28 住宅火災 発生原因別の順位
たばこ	20人	第3位 (153件)
ストーブ	7人	第5位 (112件)
電気関係	4人	第4位 (134件)
こんろ	3人	第1位 (305件)
不明	16人	—

※ 発生原因別の第2位は「放火」

上の表は、過去5年間（H24～H28）の住宅火災で亡くなられた人数と発生原因を示したものです。

「たばこ」による火災で亡くなられた方が圧倒的に多いことがわかります。また、「ストーブ」による火災件数は第5位ですが、火災により亡くなられた人数は、たばこに次いで多くなっています。

★たばこ火災を防ぐ『心がけ』

たばこ火災は、炎を上げずに時間をかけて燃え広がることが多く、発見の遅れにより、死に至るケースが少なくありません。

就寝前にたばこを吸い、火種が布団の上へ落ちたことに気づかず眠りについて、気づいた時には有毒な煙（一酸化炭素中毒）により体が動けなくなってしまい、逃げ遅れて亡くなってしまふなどのケースが考えられます。

『心がけ』ポイント



★ストーブ火災を防ぐ『心がけ』

H24～H28年のストーブ火災で死者が発生した火災の原因を調べると、7件中4件が電気ストーブの使用で起きていることがわかりました。

固定されたストーブとは違い、自由に動かすことができるため、ついつい自分の近くに置いてしまい、就寝中に寝返りをうったことで布団がストーブに接触し、火災になるケースも発生しています。

『心がけ』ポイント



市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO